

るもの等異常なもの 6 個體，手術側が完全に缺失しているもの 1 個體。donor 20 個體を夫々對照的に調べ，全く正常であることを見出した。この結果は，側板腹部は中間中胚葉の占める位置に高められることによつて，泌尿生殖系組織に分化し得る competence を保持することを示す。

側板背部の competence 朝山新一 (大阪市大・理工・生)

前題の場合と同じ方法で側板背部を中間中胚葉域へ移植し 55~70 日飼育後，host 手術體側の性巢域と，donor に及ぶ手術の影響を對照しつつ組織學的にしらべ，移植片の分化を検討した。host 35 個體のうち手術側性巢域の正常なもの 20 個體，やゝ小さいもの 4 個體，部分的缺失・不整攪亂・全般的缺失など異常なもの 14 個體で，それぞれ 57.2, 11.4, 28.6% を示す。完全に缺失したものはない。この結果と先の側板腹部移植の結果を考へて，この期の側板には泌尿生殖系組織に分化しうる competence が保有され，背部でそれが飛躍的に高いことを示す。これらの結果は初期胚體後半の體壁に背腹の勾配があること，また性細胞原基が胚發生のきわめて初期から體細胞と峻別される独自の質のものとして前成的に分離保存されているものではないという，演者の前年の豫想を裏切るものではない。

(問) 中胚葉の組織器官の決定が極めて遅く起る事のよい資料と思われる。germ cell も他の組織となる可き細胞から生じたと考えてよいか。(山田常雄) (答) 今迄そのことを検討するため，色々の實驗を試みて來たわけで，その結果 germ cell の前成を肯定するわけにはいかない。(問) 題目に competence として potency としなかつたわけは。(川上泉) (答) 組織環境を重視したわけです。

胚發生機構の免疫化學的解析 II 井上和子 (金澤大・醫・金澤女子短大)

兩棲類初期胚の發生に伴う生化學的分化の状態を分析するために，次の實驗を行つた。I). *Hynobius* を用い，血球凝集阻止反應により胚發生過程に血液型物質の生成を證明した。型質は囊胚期以後に強く出現し，A, B 型が夫々異つた勾配を示す。更に蛋白，糖質，脂質の各分劃につき分析し，型物質を基準として，それらの發展を追究した。又この型質は植物極側に殆んどなく，動物極背側に出現して來る。II). *Triton* の胞胚，囊胚，神經胚に對する抗血清を作り (家兔)，各期胚並にその蛋白，糖質分劃によりこれを吸收し，凝集反應を基準として各期コロイドの分化状態をしらべた。III). 上記抗血清と胚コロイドとに夫々，所謂蛋白質の group reaction (diazo compound, ketene, phenyl isocyanate, monoiodoacetic acid, cysteine, H_2O_2 , iodine, formaldehyd, tyrosinase) を施し，その steric effect による凝集反應の變化より，發生に伴う活性基の轉換を判斷するのに有意義な成績群を得た。

ミ>ズの再生時に於ける極性の變換について 川上逸枝 (九大・理・生)

岡田及川上 ('43) は，*E. foetida* を材料に使つて，頭再生域へ尾の體壁の一部を持込んで置換移植を行つた後截頭すると，持込まれた尾の體壁の量の多少によつて頭或は尾を再生することを報告した。その後それと同一手術の後，尾部切除を行つた，20~25 體節の短片では，前の實驗から當然前方再生體の極性の變換が豫想されるものが，移植以前の極性に從つて頭を再生した。GATES ('49, '50) も同一材料で，20~25 體節の短片とすると，前方への再生能が増強されることを見ている。このことは，演者の追試實驗でも認められるところであつて，尾の存在は，頭尾兩再生能の部位に對しては，頭の再生能を抑え，單一再生能をもつ部分に對しては，その再生を抑えているといえるのではなからうか。

(問) 後の方で切りとらずに，しばつて見たらどうということになるか。(佐藤忠雄) (答) *E. foetida* では尾部が非常に autotomy を起し易いので，しばつておいてもすぐ切落してしまつて結果が見られないと思ふが，一應行つて見たいと思ふ。